

中学校 国語科 部会

部会長名 校長 村上 きぬよ
実践者名 教諭 金井 友美

1 研究主題

表現力を育む学習指導の研究
～主体的・対話的・深い学びの視点に基づいた授業づくりを通して～

2 主題設定の理由

(1) 社会の要請と新学習指導要領の動向から

近年の現代社会は、情報化やグローバル化等の社会変化が目まぐるしく、予測を超えた進展がみられる。このような社会を生きる子どもたちにとって、様々な変化に積極的に向き合い、情報を見極めたり課題を解決したりする力を身につけ、新たな価値を創りあげる力が必要である。中央教育審議会答申（平成28年12月）においても、今後、子どもたちに育成すべき資質・能力は、①生きて働く「知識・技能」、②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」、③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」であるとしている。

これらを踏まえ、新学習指導要領の国語科の目標は、「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成する」としている。知識・技能の活用、他者を意識した言語活動そして言語活動を活性化させることを意識した授業づくりが求められている。

以上のことから、新学習指導要領の全面実施を見据え、本主題を掲げた実践研究を行うことは、本郡学校教育の充実を図るうえで大変意義深いと考える。

(2) 田川郡の生徒を取り巻く状況から

エネルギー革命に伴う炭鉱閉山の影響は、長年にわたって生徒の生活に大きく影響を与えてきたと言われている。本郡でも、経済的な問題から、生活環境的に厳しい状況にある生徒が多い。一方で、携帯電話やスマートフォンの所持率は年々高くなり、利用時間は長く、基本的な生活習慣の定着や健康面に影響を及ぼし、学力向上を阻む一因ともされる。

全国学力・学習状況調査結果からもわかるように、筑豊地区の生徒の学力は、伸び悩んでいる。

	平成30年度	平成31年度
福岡県	100	98.6
筑豊地区	93.6	90.4

【資料1 平成30・31年度実施 全国学力・学習状況調査より（中学校国語）】

以上のことから、学習活動の中で、言葉による見方・考え方を働かせ、正確な理解力と適切な表現力を育成することが必要であると考えます。

3 主題・副主題の意味

(1) 「表現力を育む学習指導」とは

表現力を育む学習指導とは、言語活動を通して、国語を使って内容や事柄を適切に表現する力

を育成することである。国語科は、国語で理解し表現する言語能力を育成する教科である。言語を手掛かりとしながら、論理的な思考力や豊かな想像力を養い、それらを表現していく力を育てていく指導を行うことである。

(2) 「主体的・対話的・深い学びの視点に基づいた授業づくり」とは

主体的な学び

学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる学び

対話的な学び

生徒同士の協働、教師や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自らの考えを広げ深める学び

深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で、言葉による見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連づけてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう学び

主体的・対話的・深い学びの視点に基づいた授業づくりとは、この3つの学びの視点と学習活動とを結びつけることを意識した授業を行うことである。

4 研究の目標

3つの学びの視点に基づいた授業づくりを通して、様々な作品の心情や情景を読み取り、それを自分の言葉で表現する学習指導のあり方を究明する。

5 研究仮説

3つの学びの視点に基づいた授業づくりにおいて、次のような手だてをとれば、表現力を育成することができるであろう。

(1) 主体的な学び

おみくじに用いる言葉を考えたり調べたりするために、言葉の分類や整理をすることで、学習の見通しをもたせる。

(2) 対話的な学び

おみくじに使う和歌の解釈を書くために、和歌の言葉と向き合い、思考を表現する。

(3) 深い学び

和歌の読み方を広げるために、おみくじに書いた内容を発表し、自分と他人の解釈を比較する。

6 研究の計画

(1) 単元 いにしえの心と語らう「君待つと一万葉・古今・新古今」

(2) 単元の目標及び指導計画

①目標

○ 和歌の世界に触れる楽しさを味わい、すすんで作品を読もうとしている。(関心・意欲・態度)

- それぞれの和歌について、語句の使い方や表現の工夫に注意して読むことができる。
(読むこと)
- 和歌に表れた心情や情景などについて自分の考えをもち、互いに交流することで、理解を深めることができる。(読むこと)
- 三大和歌集の代表的な和歌について、歴史的背景やそれぞれの和歌の特徴を捉えることができる。(伝統的な文化と国語の特質に関する事項)

②指導計画（総時数4時間）

時	学習活動	教師の支援・援助	評価規準表				評価方法	
			関心・意欲・態度	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと		伝統的な文化と国語の特質に関する事項
1	・「万葉集」の和歌に歌われている作者の心情や情景を捉え、想像したことを交流する。	・現代語訳や画像等を参考にして、和歌の内容を大まかに捉えさせる。	・「万葉集」の和歌の内容を大まかに捉え、想像したことを発表しようとしている。			・「万葉集」の和歌の内容を大まかに捉え、想像したことをまとめることができる。	・和歌の表現技法を理解することができる。	様相観察 プリント
1	・「古今和歌集」「新古今和歌集」の和歌に歌われている作者の心情や情景を捉え、想像したことを交流する。 ・三大和歌集の特徴を捉える。	・現代語訳や画像等を参考にして、和歌の内容を大まかに捉えさせる。 ・和歌を比較させ、それぞれの和歌集の特徴を捉えさせる。	・「古今和歌集」「新古今和歌集」の和歌の内容を大まかに捉え、想像したことを発表しようとしている。			・「古今和歌集」「新古今和歌集」の和歌の内容を大まかに捉え、想像したことをまとめることができる。	・三大和歌集の特徴を捉えることができる。 ・和歌の表現技法を理解することができる。	様相観察 プリント

1 (本時)	・和歌に表れている情景や心情が伝わるおみくじを作る。	・おみくじの中で使う言葉を考えさせたり調べさせたりして、書く材料とさせる。	・和歌を読み、おみくじを作ろうとしている。			・和歌に表れた情景や心情が伝わる表現ができる。		様相観察 プリント
1	・和歌を再読し、鑑賞文を書かせる。	・言葉に注目させ、鑑賞文を書く材料とさせる。	・和歌の鑑賞文を書こうとしている。			・和歌に沿った鑑賞文を書くことができる。		様相観察 プリント

7 指導の実際

(1) 本時の指導観

導入では、本時の学習活動とゴールが明確になるように、前時に例示したおみくじ和歌を提示する。展開時には、おみくじの中で用いる言葉を集めるために、付箋を用いてグループで考えたり辞典で調べたりする活動を設定する。そして、和歌の言葉と向き合い、思考を表現するために、集めた言葉を使っておみくじを書く活動を設定する。終末では、和歌の読み方を広げるために、自分の和歌の解釈と他の生徒の和歌の解釈を比較する場を設定する。

(2) 本時の主眼

おみくじを作る学習活動を通して、和歌に表れている情景や心情が伝わる表現ができる。

(3) 展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法	形態	配時
1 前時の復習と本時のめあてを確認する。	・本時の学習活動とゴールが明確になるように、前時までの復習と本時の流れを確認する場を設定する。		一斉	5
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">めあて：和歌に表れている情景や心情が伝わるおみくじを作ろう。</div>				

2 おみくじの中で使う言葉を考えたり調べたりする。	既習事項や前時までのつながりを意識するために、言葉の分類や整理をする。【主体的な学び】	・おみくじの中で使う言葉を考えたり調べたりして、おみくじを作ろうとしている。(様相観察)	個人グループ	20
3 おみくじを書く。	和歌の言葉と向き合い、思考を表現するために、集めた言葉を使っておみくじを書く活動を設定する。【対話的な学び】	・和歌に表れている情景や心情をもとに、自分の解釈を表現できる。(プリント)	個人	15
4 おみくじに書いた内容を発表する。	和歌の読み方を広げるために、自分の解釈と他の生徒の解釈を比較する場を設定する。【深い学び】		一斉	10
まとめ：言葉に注目することで、様々な解釈が生まれ、和歌の世界が広がる。				

8 研究のまとめ

(1) 主体的な学び

前時まで、例を示していたため、学習活動の見通しをもって取り組ませることができた。【写真1】積極的に国語辞典や類語辞典を引いて言葉を集める生徒がいる一方、辞典を用いる意義やよりよい言葉を探る必要性を感じない生徒もいた。【写真2】



【写真1】



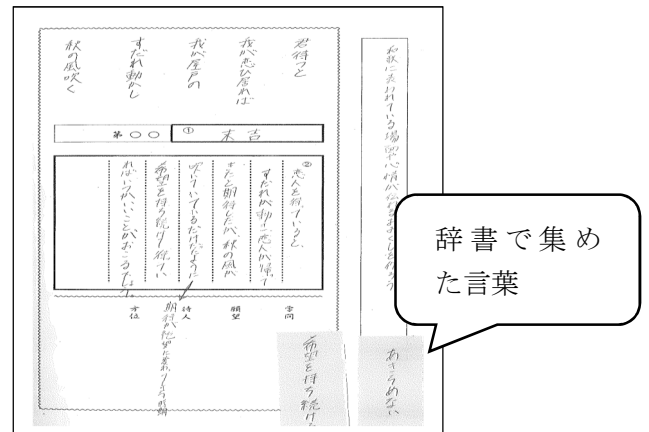
【写真2】

(2) 対話的な学び

和歌と向き合い、自分の思考を表現する姿が見られたが、辞典で調べた言葉を表現に生かす指導に至らなかった。(【写真3】・【写真4】)



【写真3】

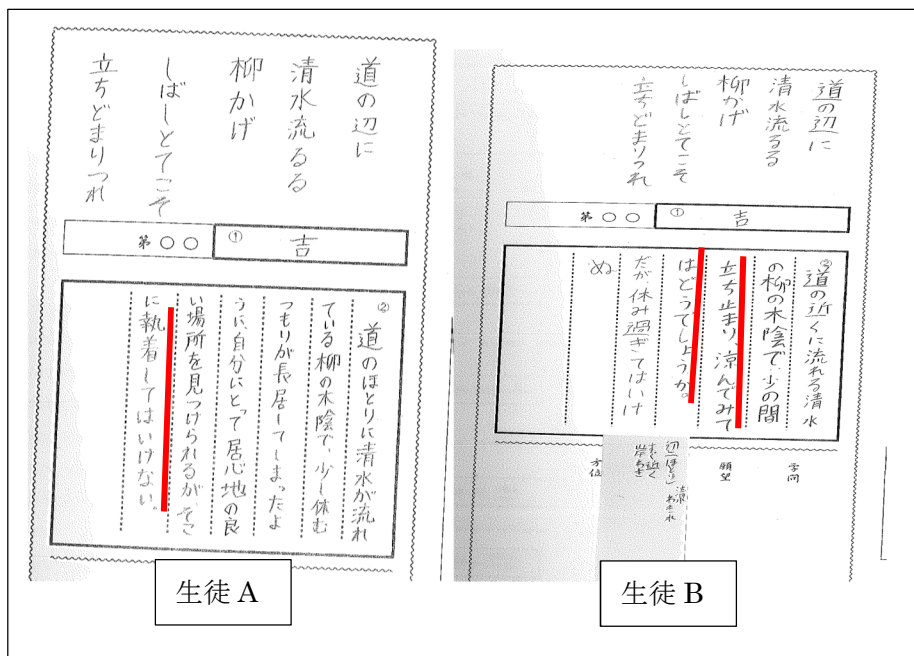


【写真4】

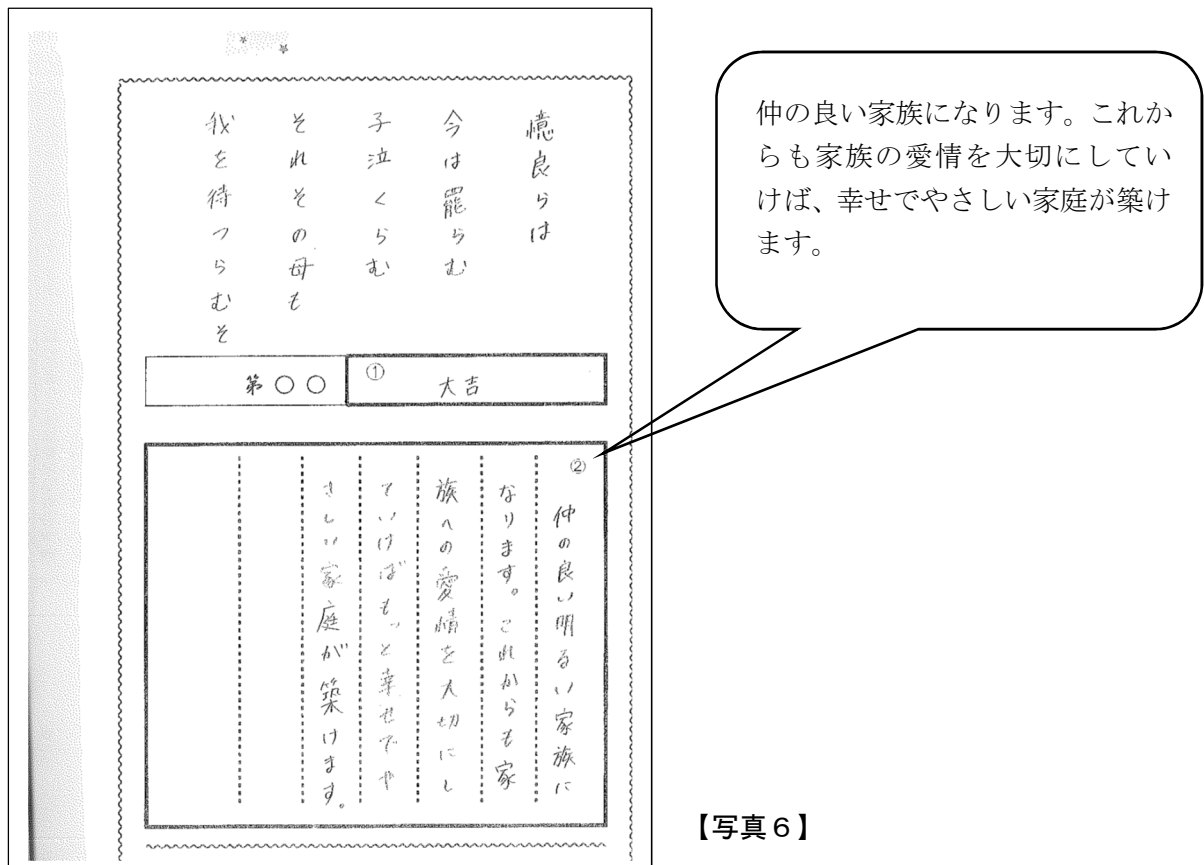
(3) 深い学び

おみくじに書いた内容を発表し、自分と他人の解釈を比較し、同じ和歌であっても吉凶や解釈が変わることを知り、その面白さを味わわせることができた。例えば、「道の辺に清水流るる柳かげしばしとしてこそ立ちどまりつれ」の和歌では、生徒Aは「居心地の良い場所だからといって執着してはいけない」と表現し、生徒Bは「立ち止まって涼んでみてはどうか」と表現している。

(【写真5】) また、解釈が困難であると予想していた「憶良らは今は罷らむ子泣くらむそれぞれの母も我を待つらむそ」の和歌に、解釈をつけることができた生徒もいた。(【写真6】)



【写真5】



9 成果と今後の課題

(1) 成果

○初詣に行った際、おみくじに書かれていた和歌について報告にきた生徒がいたことや休み時間に百人一首の和歌の吉凶を生徒同士で話す姿があったことから、主体的な学びの連続性が見られた。

○他の単元で、類語辞典や国語辞典を引く姿が見受けられるようになった。

(2) 課題

●対話的な学びの場面と方法が妥当であったか。

●辞典を活用させることができなかつた。生徒が辞典を用いる必要性を感じる学習課題を与えるとともに、よりよい表現を求める意欲をもたせたい。

◎参考文献

- ・ 中学校学習指導要領解説 国語編（平成29年） 文部科学省
- ・ 授業を磨く 田村学 東洋館出版社
- ・ 深い学び 田村学 東洋館出版社
- ・ 和歌に興味をもち、親しむ態度を育てる教材開発と指導の工夫—新古今時代に着目して—
宮久保ひとみ・松川利広 奈良教育大学次世代教員養成センター研究紀要1巻 p 327～334
- ・ 生徒の意欲を引き出す国語の授業—「書く」活動を通して— 岡村麻衣子

山形大学大学院教育実践研究科年報 2 巻 p 98～105

・国語科における表現能力の向上を目指した指導の工夫：グループ活動を中心にして
星川沙織 山形大学大学院教育実践研究科年報 4 号 p 34～41